



熱っぽくてだるい・・・その発熱、大丈夫なの?!

かぜ症候群とコロナウイルス感染症(COVID-19)、インフルエンザウイルス感染

私たちの身近な病気のひとつに「**かぜ症候群**」があります。「かぜ症候群」は鼻腔から咽頭をこえて喉頭までの急性の炎症による疾患の総称です。特に 2020 年の冬に向けて同様の急性の気道感染症に注意が必要となっていますので再確認していきましょう。

1、感染のプロセス

かぜ症候群の原因微生物は、80～90%がウイルスといわれています。ウイルスが私たちの気道から体内に侵入し、私たちのからだの細胞を利用して「自分のコピー」を増殖させ感染症を引き起こします。このとき侵された気道に炎症が起こり腫れて発熱します。この発熱はウイルスの増殖を抑え治癒しようとする反応なのです。このようなウイルス感染のプロセスを考えると、細菌感染の治療薬である抗生物質は効果がないことが理解できます。さて、原因となるウイルスによって症状が軽かったり重かったりしていますので、特徴的なウイルスについて少し詳しく知っていきましょう。



2、特徴

- ライノウイルス**: ウイルス性のかぜ症候群の 50%前後と大部分を占めています。鼻汁や軽い咳などの症状が見られます。33 度ほどで増殖するとされますので発熱すると比較적すみやかに治癒に向かいます。
- コロナウイルス**: ウイルス性のかぜ症候群の 15%前後を占めるとされます。本来は高熱や全身の筋肉痛は起こりにくいのですが、今般の流行を引き起こしているウイルスは変異し肺炎まで急速に悪化する場合があります。
- RS ウイルス**: 鼻汁や軽い咳がみられますが小児では肺炎をきたしたり重症化しやすいため注意が必要です。家族内での感染に注意しましょう。
- アデノウイルス**: 夏かぜに多いウイルスとされますが年間を通して感染症をおこします。咽頭(ノド)の粘膜の発赤、腫脹のほか、インフルエンザに似た高熱、倦怠感、筋肉痛など全身症状もみられます。結膜炎などのほか、肺炎や髄膜炎など重症化することがあり注意が必要です。

記: 腎臓内科 齋藤淳史



ウイルスは気道から侵入しやすいです
マスクはきちんと鼻まで覆いましょう!

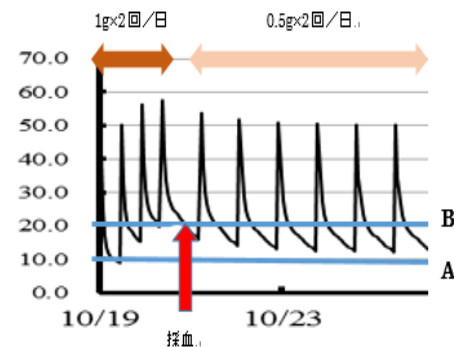
注意

バンコマイシン投与時は
エクセルチャートへの情報入力を忘れずに!!!

院内ルールとその理由ご存じですか?

病院では日常的に抗菌薬を患者さんに投与していますが、その効果には個人差があります。個人差の要因は複数(起因菌の感受性、患者さんの免疫力、他)ありますが、その一つとして血液中の薬物濃度(血中濃度)が挙げられます。血中濃度は患者さんの体格や腎機能に左右され、時間の経過により変化(推移)します。推移は、たとえば 1 時間毎に血中濃度を測定することでわかりますが、実臨床では適切なタイミングで得られた測定値(1 点)をもとに TDM(治療薬物モニタリング)解析を行い推移を推定します。そして適切な濃度になるよう投与方法の調整をおこないます。

当院の TDM 対象抗菌薬は**バンコマイシン(VCM)**、**テイコプラニン(TEIC)**です。TDM 解析に必要な情報のうち、臨床現場の看護師のみが知る情報が**①投与時刻、②投与量、③血中濃度測定用採血時刻**の 3 点です。**VCM、TEIC の「投与時」と「採血時」には忘れずエクセルチャートに入力してください。**



左のグラフは VCM の血中薬物濃度変化のイメージです。血中薬物濃度は投与により上昇し、時間の経過に伴って減少していきます。適切な投与量の場合、複数回投与すると、このグラフのようにある濃度で落ち着き(定常状態)します。しかし、腎機能に対し多い量では上昇し続けます。濃度の底値(トラフ値)が「A: 10µg/ml」を超えると抗菌作用が期待でき、「B: 20µg/ml」を超えると腎障害が発現しやすくなるとされています。トラフ値が A と B の間(有効域)になるのが理想です。グラフでは採血前後で投与方法を変えトラフ値が有効域に入るよう調整しています。

バンコマイシン投与時の院内ルール ※「院内感染対策マニュアル」掲載あり

- 医師**: ①注射オーダーを入力: 使用届を入力
②採血オーダーを入力(採血タイミングの目安: 4~5 回目の投与直前、3 日目)
③TDM 解析報告を確認し、投与方法を再検討
- 看護師**: ①薬剤投与。**投与時刻と投与量をエクセルチャートに入力**
②採血。**採血時刻をエクセルチャートに入力**
- 薬剤部**: ①薬剤払い出し: エクセルチャート入力喚起シートを添付(初回のみ)
②TDM 解析: 電子カルテに結果を入力(必要に応じて医師に TEL)
- 検査部**: ①血中濃度測定: 結果を入力



記: 薬剤部 加藤貴子